

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報について

平成 29 年度病害虫発生予察注意報第 6 号を発表したので送付します。

平成 29 年度病害虫発生予察注意報第 6 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類 (カンシャシクイハマキおよびイネヨトウ)
- 3 発生地域 八重山群島

4 注意報発令の根拠

- (1) 石垣島における 1 月中旬の調査の結果、株出及び新植夏植ほ場における芯枯茎率は 10.7% (前年 8.8%、平年 5.3%) と平年より高く、過去 2 年よりも高かった (図 1、2)。また切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫の 80.4%がイネヨトウ、19.6%がカンシャシクイハマキであった。
- (2) 石垣島における 1 月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は 9.5 頭 (前年 4.7 頭、平年 3.1 頭) と平年より多かった (図 3)。
- (3) 石垣島における 1 月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は 1.6 頭 (前年 1.5 頭、平年 2.2 頭) と平年よりやや少なかった (図 4)。
- (4) 防除員報告によると、メイチュウ類の発生程度は波照間島で「中」、与那国島で「多」であった。

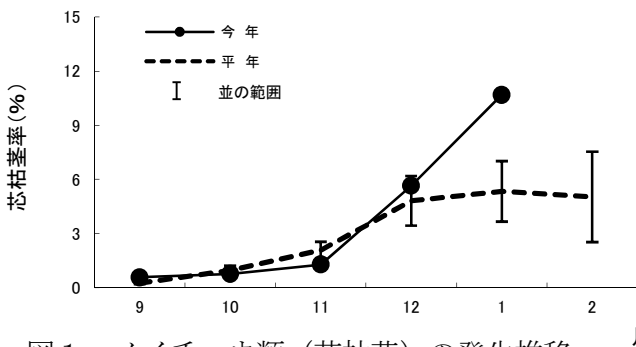


図 1 メイチュウ類 (芯枯茎) の発生推移

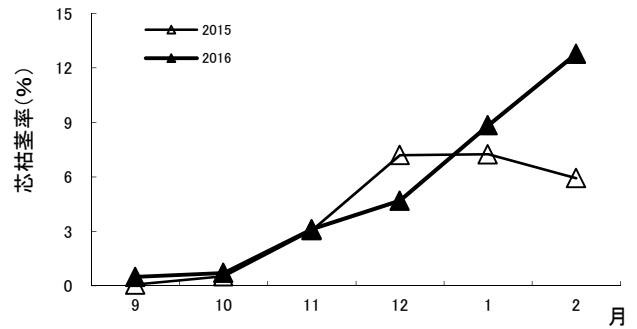


図 2 メイチュウ類 (芯枯茎) の発生推移 (過去 2 年)

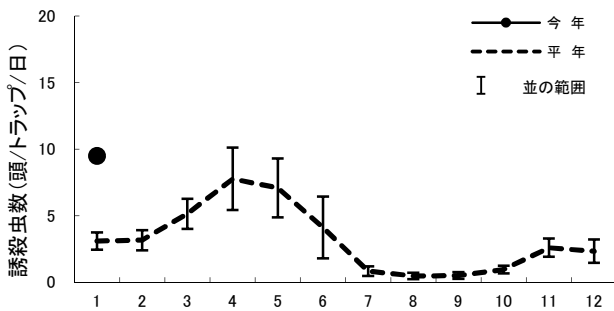


図 3 カンシャシクイハマキ (トラップ) の発生推移

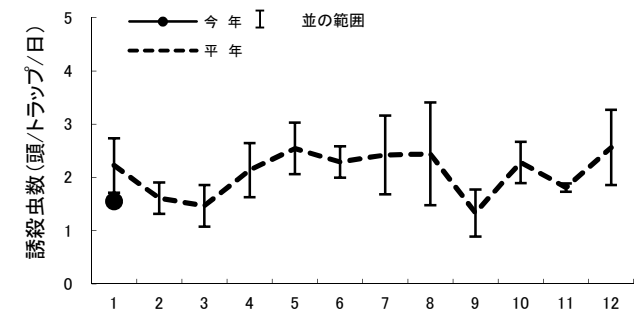


図 4 イネヨトウ (トラップ) の発生推移

5 発生生態および被害

- a 被害ほ場およびイネ科雑草が発生源となり、ほ場に侵入する。
- b ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れ（図5、6）を起こす。

(1) カンシャシンクイハマキ（図7）

- a 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉や茎に1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
- c 被害はほ場内に散在的に発生する。

(2) イネヨトウ（図8）

- a 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。
- c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分けつ期の芯枯れを防止するため、食入初期の幼虫を対象に薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し、降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間において再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 培土時には土壌害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を施用する。
- (6) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図5 被害ほ場の様子（石垣島）



図6 芯枯れ茎



図7 カンシャシンクイハマキ幼虫



図8 イネヨトウ幼虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0908-82-4933

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>